OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	タイ語の友人同士の会話における悩み語りの構造の分析 : 日本語との対照研究に向けて
Author(s)	チャランポン, スパーナン
Citation	日本語・日本文化研究. 2019, 29, p. 360-370
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/73721
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

タイ語の友人同士の会話における悩み語りの構造の分析
−日本語との対照研究に向けて−

チャランポン　スパーナン

1. はじめに

近年、日本語の会話研究が盛んになり、日本語学習者のコミュニケーション能力を高めるための教育に寄与する研究も増えてきている。「依頼」「感謝」「褒める」など様々な会話場面に関する研究がなされており、他言語との対照研究も多く行われている（Daengsubha（2015）、北口（2015）など）。しかし、その中で悩み語りに関する会話の対照研究は少ない。学習者は悩み語りに関する文型やフレーズを知識として理解している可能性はあるが、実際に悩みを抱えていて、日本語母語話者との会話の中でそれを話題にしたいと思った時、日本語で円滑にコミュニケーションをすることができるのだろうか。

日本語における悩み語りの会話としてよく見られるのは、例えば以下のような会話例である。

会話例 1［JJ1 によるデータ］（F が E に自分が書いている卒業論文の内容がないことについての悩みを語り始める）

44	F: なんか.今日(.)進捗具合の先生に出して::゜¥こんな感じ	現状説明(概要)
45	：ですやった::みたいな.゜本当につい最近まで本当に,	
46	：［なんか全然できてなかった	
47	E:［hhhhhhhhhhhhhhhhhhhh	
48	F: 章立て.［どうしようははは:みたいな感じだったの¥	現状説明(詳細)
49	F:　　［うんうん::うん:う::んう:::::ん	あいづち
50	F: 今日くらい.昨日今日くらいで＝	現状説明(詳細)
51	E: ああ	あいづち
52	F: ＝章立てこんな感じ［かなと思って.	現状説明(詳細)
53	E:　　［ああ:::¿ああ:.	あいづち
54	F: 2 章なんとなく書いたの,	現状説明(詳細)
55	E: う::ん	あいづち
56	F: 3 章の方がなんか:.h 内容がなｈくて.h［h 何ｈ書こう hhhh=	現状説明(核心)
57	E:　　［hhhhhhhhhhhhhhh	笑い
58	F: =¥みたいな¥hh 書くことどうしようと思って,	現状説明(核心)
59	E: あ:,	あいづち
60	F: こんだけ本大量に［借りてるけど::.hhh	現状説明(核心)
61	E:　　［ああ::ああ.hhhh	あいづち
62	F: 本読んでも全然頭に入ってこないし hhh	現状説明(核心)
63	E: うん	あいづち
64	F: hh やば::いってなってる。本当に［やばい.hhh	心情の表明

この会話では、F が自分の悩みにまつわる【現状説明】を行い、その中で「内容がなくて」「書くことどうしよう」という悩みを具体的に述べ、「やばい」と【心情の表明】を行って、悩みであることを聞き手に伝えようとしている。

しかし、タイ語においては、このような会話のやりとりとは異なるやり方で悩み語りが行われることも多く、タイ語を母語とする日本語学習者がタイ語での悩み語りの方法を日

本語で行うと、日本語母語話者との間でコミュニケーション上の問題が起こる可能性がある。したがって、日本語とタイ語の悩み語りの対照研究を行い、その異同を明らかにして、日本語教育に応用することが必要であると考える。ただし、タイ語の悩み語りに関する研究は管見の限りなく、日本語との対照研究を行うためには、まずタイ語の悩み語りの構造や言語形式等の特徴を明らかにしなければならない。

そこで本稿では、タイ語の悩み語りにおける会話の構造を分析し、日本語との対照研究を行うための足がかりとすることを目的とする。

2. 先行研究

2.1 語りの定義と構造に関する先行研究

本稿で扱う「語り」については、先行研究において様々な用語が用いられている。Labov（1972:359-360）は、Narrativeとは、「言葉による節の連鎖と実際に起こった出来事の連鎖を対応させることによって過去の経験を再現する1つの方法」（Labov 1972（訳は佐田 2006））であると定義している。一方、李（1998:8）では、物語は「雑談の中で披露された過去に発生する出来事」を指すものと述べている。そして、串田（2009:13）は、「語り」と呼ぶのは「相互行為の中で複数の文や節を連ねて、自分の体験や誰かから聞いた出来事を描写する活動である」と述べている。本稿では、これらの用語に共通する「過去の体験や出来事を描写する」行為を「語り」と呼ぶことにし、特に悩み語りに焦点を当て、分析していく。

日本語の語りの構造についての研究では、Maynard（1989:118-119）は、日本語の雑談におけるナラティブ（Narrative）の構造をPrefacing、Setting、Narrative Event、Resolution 、Evaluation /Reportability、Ending Remarkの6つの部分に分け、更に各要素を必須要素と任意要素に分類する必要性を指摘している。Maynard（1989:118）はEvaluation /ReportabilityやEnding Remarkなどは語り手が必ず提供するとは限らず、聞き手や談話の文脈によって生起する場合のある任意の要素であると述べている。

佐田（2006）は、Maynardに基づき、親しい友人同士の雑談におけるNarrativeを分析し、SettingとNarrative Eventの要素は必須要素として認められたが、Maynardの必須要素であるPrefacingは任意要素であり、Ending Remarkという要素は見られなかったとしている。

また、Jefferson（1988:10-11）は、英語のTroubles-talk[1]の構造を大きく、Approach、Arrival、Delivery、Work-up、Close Implicature、そして、Exit の6つの部分に分け、さらにInitiation、Trouble-Premonitorなどの下位項目を22項目挙げている。下位項目の要素は単独で生起することもあれば、組み合わされた形で用いられることもあると述べている。

2.2　日本語の悩み語りの先行研究

日本語の悩み語りの研究については、悩み語りの場面における語り手と聞き手の「分かち合い」に関する研究が多く行われている。これらは「分かち合い」の研究であるため、語り手の行為より、主に聞き手による理解・共感の行為に焦点を当てた研究が多い。

戸江（2018）は子育てひろばにおける悩み語りを分析し、語り手がまず「最近、調子はどうですか？」という習慣的な挨拶をし、受け手が「いいと思うよ、たぶんね」といったふくみのある応答をすると、質問をした語り手は回答の後で悩み語りを切り出すと述べている。また聞き手に関して、戸江（2018）は、子育てひろばの悩み語りの場面において、語り手が悩みを語ると、それを聞いた他の母親はそれを分かり合ったり、助言をしたりするが、そこで語られる悩みはそれほど深刻なものではなく、他愛のないものが多いため、これらの悩みの多くは特に何かの解決策を講じなくてもいいと指摘している。このような悩み語りの内容に関して、安井（2018）は、日本語母語話者の友人同士の実際の日常会話を分析した結果、語られた悩みや問題が異常・特異なものではなく、誰でも感じうる「普通のこと」であるということを示すことが適切な返答だと述べている。聞き手が、悩みの語り手との「共一成員性（Co-membership）」を可視化させ、「そのような悩みを抱くことは異常なことではなく普通のことだ」ということを立証することに志向することは、語り手への共感・理解を強調できるだけでなく、自分の弱点を露呈したことで語り手が多少感じる可能性のある「ばつの悪さ」「恥ずかしさ」の度合いを軽減することになると考えられると論じている。

2.3　先行研究の問題点と本稿の課題

先行研究では日本語の語りの構造について明らかにされている。しかし、Jefferson（1988）の troubles-talk の構造における下位項目の多さに見られるように、語りの構造と言っても語りの目的や内容などにより様々な種類があると考えられる。

日本語の悩み語りの研究は、語り手と聞き手による相互行為として分析されており、特に、語り手の行為より、悩み語りに対する聞き手の行為に注目した研究がなされている。だが、本稿は日本語とタイ語を対照することが目的であるため、まず、それぞれの言語の構造の特徴を分析して一般化しなければならないと考える。また、悩み語りの主役は語り手であると考えられるため、語り手の語りの方法を詳細に分析することが必要である。

そこで、本稿はタイ語の悩み語りの構造に焦点を当て、特に語り手の語りの方法について分析していく。

3.　研究方法

本稿ではタイ語の悩み語りにおける会話の構造を分析し、日本語との対照研究の足がかりとすることが目的である。そのため、自然会話に近い状況での会話を収集して分析対象

とし、悩み語りの会話において用いられる発話の連鎖に焦点を当て、どのような行為を遂行しているのかを解明する。

3.1 データ収集方法

本研究では、日本語母語話者とタイ語母語話者の大学生それぞれ2組、計4組の会話データを収集した。4組のペアはすべて友人関係の女性同士であり、各言語の協力者2名に対して、仲がいい友人を一人連れてきてもらうように依頼し、2名のペアで会話をしてもらった。なお、タイ語母語話者同士の協力者については、日本語の影響を最小限に抑えるために、日本語学習者ではない人に依頼した。データ収集の協力者の詳細は、以下の表に示す。

表1　各組の協力者に関する情報

組名	協力者（年齢）	学年	協力者同士の関係	知り合いである期間	記録時間
TH1	A（20）	3年生	友人関係（元ルームメイト）	3年間	18.49
	B（21）	3年生			
TH2	C（22）	4年生	友人関係（小学校～高校までの同級生）	14年間	19.26
	D（22）	4年生			
JJ1	E（22）	4年生	友人関係（同級生）	3年半	18.17
	F（21）	4年生			
JJ2	G（23）	4年生	友人関係（同級生）	5年間	17.15
	H（23）	4年生			

会話の収録に際しては、2名の協力者によるペアで「悩みの相談」というテーマで約15-20分くらい会話をしてほしいと伝え、それ以外は特に指示せず、自由に会話をしてもらった。「悩みの相談」は、語り手が今抱えている悩みの事情や情報を提供し、また聞き手は悩みの情報に対する評価や意見を表出し、自分の悩みも交換できる話題ではないかと考えられるため、悩み語りの分析をするのに適していると考え、このような方法を採った。会話はiPhoneにより録音・録画した。各組のデータ収集の際には協力者の上半身を前にあるiPhoneに向け、会話してもらった。

今回のデータの限界としては、各言語の会話例が少ないことと4組のペアがすべて女子大学生であるため、分析結果を一般化するのが難しいことがあげられる。今後は、さらにデータを増やして分析していく必要がある。

3.2 分析方法

まず、収集した会話データの音声を文字化し、分析データとして用いる。なお、タイ語の会話は、タイ語を知らない読者にも理解できるように日本語に直訳する。そして、すべての発話に発話機能を付けてから、会話の中で悩み語りの部分を抽出し、その部分での発話の連鎖を分析することによって、会話の構造を明らかにする。

本稿で用いる「発話機能」はトーンハーン（2012）、Daengsubha（2015）を参考にし、筆者で修正を加えた。それぞれの定義を以下に挙げる。

表 2　悩み語りにおける発話機能

発話機能	定義
【経験語り】	過去の体験や出来事を描写する発話
【心情の表明】	人物や出来事に対する感想を述べる発話
【悩み提示】	現在抱えている悩みを示す発話
【現状説明】	現在抱えている悩みの事情を説明する発話
【質問】	わからない事、疑わしい事を問いただす発話
【応答】	相手の【質問】に対する応答発話
【理由説明】	自分の前の発話に対して、理由を述べる発話
【共感】	相手と同様に感じていることを示す発話
【語りへの協力】	語り手の語りの発話に合わせよう、または語りを助けようとする発話
【受け入れ】	相手の【共感】などの発話を受け入れる発話
【からかい】	相手に冗談を言って、相手を揶揄する発話
【あいづち】	話し手が発話権を行使している間に聞き手が送る短い表現の発話
【笑い】	笑うこと

悩み語りの抽出方法に関しては、データから会話の内容を観察し、語り手が精神的に負担を感じさせられている事柄、そして現在まだ解決していない事柄に関して話している部分を悩み語りとして抽出した。

語りの構造の分類に関して、佐田（2006）は、日本語母語話者の親しい友人同士の雑談において Narrative の構造を Prefacing、Setting、Narrative Event、Resolution、Evaluation/Reportability、Ending Remark の 6 つに分けている。しかし、本稿と佐田（2006）の研究目的には異なる点があるため、佐田とは異なる分類を用いる。佐田は Maynard（1989）を参考に、語りの構造と必須性を確認することを目的としているが、本稿はタイ語の構造の特徴を探ることが目的であり、佐田の区分では的確に分析ができない部分があると考えられる。例えば、本稿は語り手が出来事をどのようにリアルに描写しているかを考察するため、出来事の語りを Narrative Event としてひとまとめに分類すると、出来事の内容をどれほど詳細に述べているかを明確にみられない場合がある。また、語りが長い場合にはどこがその語りの中心となる部分かを示すことが難しいと考えられる。

したがって、本稿でのデータの分析においては、語りの構造を、「語り開始」「語りの概要」「語りの詳細」「語りの核心」そして「語りの結末」の 5 つに分ける。区分の基準は、下記の通りである。

1.「語り開始」とは、語りを開始するための手続きが行われる部分である。
2.「語りの概要」とは、語り全体の要点をとりまとめた部分、また語り手がこれからどんなことを語るのかの大筋を示す部分である。
3.「語りの詳細」とは、出来事に関する詳細な情報を提供する部分である。
4.「語りの核心」とは、出来事の中心となる重要な部分、また中核である部分である。
5.「語りの結末」とは、出来事の結末に向かう部分である。

以上の基準によって、文字化データを区分し、それぞれの区分した【経験語り】の発話のつらなりの特徴を分析する。

4. 分析と考察

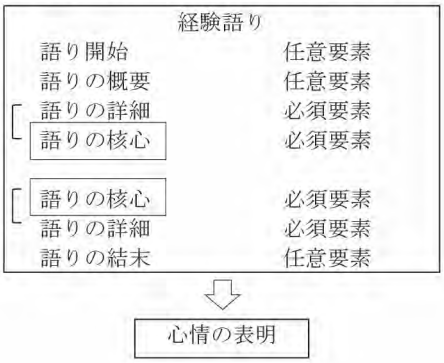
本稿のデータでは、タイ語の2つの会話データから、12の悩み語りの事例が抽出された。本節では、タイ語の悩み語りにみられた会話の構造について、会話データを挙げて記述する。

4.1 タイ語の悩み語りの会話の構造

今回のデータ収集では、すべての協力者に「今抱えている悩み」について自由に話すように指示した。その結果、タイ語母語の協力者はいずれも主に自分が体験した「いやだった経験」を語るという特徴がみられた。

タイ語のデータに見られた最も多かった構造のタイプ[2]を以下の図1に示す。

図1 タイ語における悩み語りの最も多かった構造



タイ語では、まず語り手が経験したいやな出来事を語り、そしてその後に現在と繋がっている感情を表現していた。すなわち、タイ語母語話者は、現在何を悩んでいるかを明示しないまま、過去に体験した経験を語りながら、その経験がいやだったと言い、その経験の結果、現在もいやな気持ちが続いていることを表明するという会話構造のタイプが、12の悩み語りのうち、4つでみられた。また、一つの話題の中でこのタイプが複数現れる場合も見られた。このタイプの特徴は、聞き手がこの経験語りを単なる経験語りとして聞いてしまう可能性があり、その後の心情の表明まで聞かなければ悩みを語っているとは気づかないまま話題が終わってしまうということである。したがって、語り手は、経験語りの際、聞き手に悩み語りだとわかってもらうような様々な方法をとっている。

以下、本稿では、紙幅の都合上、特に語り手の発話に注目して分析を行う。

4.2 タイ語の悩み語りの会話の分析

では、具体例を見てみたい。会話例1は、直前でAがある先輩と会いたくないため今年の卒業式に行かないという話をしており、それに続けてBが131で、「ほら、卒業式といえば」という前置きをしてターンを取り、自分と先輩との経験を語り始めている。

会話例 2［TH1 によるデータ］（B が A に先輩の卒業式に招待されたことについて経験を語り始める）

131	B：	นี่ไง. พูดถึงงานรับปริญญา.กู.พี่บัญทิตกูลงภาพจบ.กูไปเมนท์ยินดีด้วยค่ะ.	語り（開始+概要+
132	：	พี่แบบอย่าลืมมานะ［แล้วก็มาพักแชทส่วนตัว. มาไหมแก.	詳細）
		ほら、卒業式といえば、あたし、あたしの卒業する先輩が卒業写真を投稿したんだ。あたしは、「おめでとう」ってコメントした。そしたら先輩が、「来るのを忘れないでね」って。で、先輩が個人チャットで、「あんた来る？」	
133	A：	［hhhh	笑い
134	B：	พี่รอแกมานะ. ［แบบ	語り（詳細）
		「待ってるよ」って。なんか	
135	A：	［hhhhhhร้ายhhhพี่คะหนูสอบ	からかい+語りへの協力
		hhhhhh 意地悪い hhh 先輩、試験あります。	
136	B：	กูอ่าน. กูยังไม่ตอบเลยเนี่ย［กูแบบ	語り（核心）
		読んだけど、まだ返信してないんだ。「あたしは、	
137	A：	［อือหือ:	あいづち
		へぇー	
138	B：	กูรู้สึกผิดกับพี่มาก. พี่เค้าดีกับกู.แต่กูแบบ.หนูขอโทษ.หนูไม่คิดว่า(วิชา)อาจารย์	心情の表明+理由説明
139	：	P￥จะโครตทรมาณขนาดนี้￥อีห่า.	
		あたしは先輩に悪いと思っている。先輩はあたしに優しくしてくれたのに。でも、あたしは、ごめんなさい。P 先生（の授業）がこんなにつらいと思わなかった。	

B は 132-134 行目で、先輩に「おめでとう」とコメントしたら、先輩から「卒業式にくる？」「待ってるよ」というメッセージが来たと【詳細】を語り、136 行目で「まだ返信していない」と【語りの核心】を語っている。B は続けて 138-139 行目で、「（返信をしていないことについて）先輩に悪いと思っている。先輩はあたしに優しくしてくれたのに」と【心情表明】を行っている。ここで、初めて B がこの件に関して悩んでいることが明かされる。さらに B は 139 行目で、先輩に連絡しないのは「P 先生の授業が（忙しすぎて）つらい」からであると【理由説明】を行っている。

この事例では、136 行目の「まだ返信していない」という【語りの核心】で、先輩とのやりとりがまだ終わっていないという現在の状況を語っているため、このことが悩みであると暗示しているとも言える。さらに 138 行目の今の「心情の表明」として「先輩に悪いと思っている」と言うことで、語り手の困っている気持ちや不安である気持ちが表されており、ここに至って悩みを語っているのだということが明らかになっている。

この事例を見るとタイ語母語話者の悩み語りにおける経験語りの構造は、経験語りの出来事の核心とそれに関する詳細が必須要素であると考えられる。また、悩み語りにおける「いやな経験」を語る際、誰が誰に何をしたか、どんな内容で話したかを非常に詳細に語ることによって、出来事をリアルに描写する特徴がみられた。例えば、会話例 2 では、131-132、134 行目で B は「あたしの卒業する先輩が卒業写真を投稿したんだ」という【語りの概要】によって、これから先輩の投稿についての経験を語っていくということを述べ

た上で、「あたしは、『おめでとう』ってコメントした」と言い、続いて、「そしたら先輩が、『来るのを忘れないでね』って」と語り、さらにその後、先輩から個人チャットで、「『あんた来る？』」と「『待ってるよ』」というメッセージが来たと語っている。この部分で、Bは自分の経験の出来事を、先輩と自分のやりとりをそのまま再現する形で描写することで、時間的な順序に沿ってAが理解できるように語るという方法を採っている。

Bがこのように語りの出来事をリアルに描写することによって、Aは語りの途中でもBの困惑を把握することができている。すなわち、134行目でBが【語りの詳細】の途中であるにもかかわらず、Aは135行目で、「意地悪い」と【からかい】をし、「先輩、試験あります」とBの134行目の「なんか」の発話を完成させようとし、語り手の【語りへの協力】を行っている。このAの発話は、Bが出来事を詳細に語り、その中でBの困惑が表されたからこそ可能となったものであり、このような語り方によって、聞き手はその経験語りが実は悩み語りであると予測することができるのではないかと考えられる。

続いて、同じ構造の事例をもう一つ見る。会話例3では、Cが夜行バスに乗る前に下痢になって大変だったという経験を語っている。

会話例3[TH2によるデータ]（CがDに夜行バスに乗る前に、下痢になったことについての経験を語り始める）

504	C：ไม่(.)เฮ้ยมีช่วงนึงตอนนั้นอ่ะ.ขากลับรอบที่แล้ว.หลังจาก.(.)เอองานมึง	語り（概要）
505	：นั่นแหละ= いや(.)あ.あるときはさ.帰り道.の後.（.）うん.あんたの (卒業)式の後でね。	
506	D：=เออ= うん.	
507	C：=เออ.นั่นแหละคือกลับ うん.そういうことで.	語り（詳細）
508	(2.0)（(テーブルを叩きながら)）	
509	C：กลับรถทัวร์ใช่มะ.แล้วแบบ. バスで帰ったでしょ？で.	語り（詳細）
510	D：ใส่แพมเพิส オムツを履いてた	からかい
511	C：อยู่ดีดี.ไม่ใช่.เฮ้ยแต่คือท้องเสียอ่ะ.หนักมาก.เออ.ขี้แบบ.แทบจะทุก15นาทีอ่ะ.	語り（核心）
512	：[แล้วคือ 急に.違う.あでも下痢になったの.すごく.うん.なんかうんぴ. 15分ごとに.それで.	
513	D：[อ้าว え？	
514	C：ไปที่นครชัยอ่ะ.มันจะต้องแบบ.มันต้องเสียทีละ3บาทใช่ปะ.￥ก็เสียแม่งอยู่	語り（核心）
515	：อย่างนั้นอ่ะ￥เออ.เสีย3บาท3บาท3บาทอยู่อย่างนั้นอ่ะ.แทบจะเหมาจ่าย[แล้วอ่ะ ナコーンシャイに行ったの.であそこは.一回(のトイレ料金は) 3バーツでしょ？何回も払った.うん.何回も3バーツ3バーツ で.均一払いしたかった.	

516	D: [แก:	
517	: ::hh あんた::hh	
518	C: เออแล้วก็แบบกังวลว่าตายแล้วข้างบน(รถบัส)ฉันจะเป็นยังไงบ้าง.เออแต่ก็	語り（結末）
519	: รอด.รู้สึกแบบอืม.(.) ดี うんで.その時（バスの）中でどうなるだろうってすごく不安で. うんでも大丈夫だった.うん.よかった（.）って感じ	
520	D: สงสาร 可哀そう.	共感
521	C: ใช่.คือแบบ(.)ห้องเสียบนรถทัวร์มันไม่โอเคอ่ะ そうだよ.(.)バスで下痢になったのは最悪.	受け入れ
522	(.)	
523	D: มันไม่.เอาจริงป่ะ.ห้องเสียก็ไม่โอเคแล้วป่ะ それ.元々下痢って最悪じゃん.	共感
524	C: จริง.แล้วไอเนี่ยเฉียดหลายรอบมากเวลานั่งรถทัวร์อ่ะ.คือแบบ(2.0)คือเหมือน	同意
525	: กับว่าถูเป็นคนที่.(.)ถ้าตอนเช้าตื่นมาอ่ะ.ระบบขับถ่ายจะทำงาน.มันต้อง.ทันที	悩み提示
526	: อ่ะ.เออก็เลยมีปัญหา[เพราะมัน 確かに.でこっちは何回も（下痢）になりかけたの.なんか(2.0) こういう人なんだ.(.)朝おきたら.胃腸が動いて.すぐ. しないとね.で問題がある.	
527	D: [ถ้า もし	
528	C: ไปถึงเช้าไง （夜行バスが）朝に着くから.	悩み提示
529	D: แล้วถ้าไม่ได้เข้าอ่ะ もし（トイレ）に入れなかったら？	質問
530	(1.5)	
531	C: ขี้แตกสิ(.)ก็จะแบบตอนนี้ก็มาแล้วเหมือนกัน 漏らすでしょ？(.)なんか今も来てる.	応答

この事例では、C は 504-519 行目まで、夜行バスに乗る前に下痢になったという経験を時間的な順序に従って語っている。C は「卒業式の後バスで帰った」という状況設定を確認した上で、512 行目で「（バスに乗る前に）15 分ごとに（トイレに行っていた）」と【語りの核心】を語り、514 行目で「ナコーンシャイの一回（のトイレ料金は）3 バーツ」で「それを何回も払った」とさらに【語りの核心】を詳細に述べている。そして、518-519 行目で、「すごく不安だったが大丈夫だった」と、結局その日は無事に到着したという【語りの結末】を述べている。ここでは、C の時間的な順序に従った語り方と、「15 分ごとに」「それを何回も払った」「均一払いしたかった」「中でどうなるだろうってすごく不安で」など、その時の状況や感想を詳しく述べることにより、聞き手にその場にいるかのように出来事をリアルに感じさせる工夫をしている。

C の経験語りの直後、聞き手の D は 520 行目で「可哀そう」と語りへの共感を示している。C は聞き手の共感を受け入れた上で、525-528 行目で「朝おきたら.胃腸が動いて.すぐ（排泄）しないとね.で問題がある」という【悩み提示】を行っている。ここでは、経

験語り自体は過去の経験であり、悩み語りとしては行われていないが、上述のような語りの方法を採ることによって語り手の不安を表し、その後に【悩み提示[3]】が行われることで、経験語りが悩み語りであったことが明らかになっている。

以上の二つの会話例から、タイ語母語話者は悩みを話す際、最初から悩みそのものに言及するのではなく、周辺の事情またはその悩みの原因である経験を中心に詳細に説明する傾向があると言える。したがって、語り手の悩み語りは、語り方によっては聞き手には単なる経験語りとして勘違いされる恐れがあると考えられる[4]。特に、【悩み提示】が行われる場合でも、会話例3のように経験語りの後に行われるため、聞き手が経験語りが終わった段階で話題を展開させてしまうと、語り手が【悩み提示】を行うチャンスを逃してしまう可能性もあると考えられる。

一方、今回の日本語データに見られた最も多かったタイプは、会話例1のように【現状説明】の後で【心情の表明】を述べる構造である。この会話でも経験したことが語られてはいるが、それは主に悩み語りの背景や根拠を説明するためであるに過ぎず、日本語母語話者の悩み語りは悩みの現時点での事情の説明を中心とする傾向があるようである。

本稿の分析から、タイ語の悩み語りの構造が日本語と異なる可能性があると予想される。両言語で悩み語りのやり方に違いがあるとすると、タイ語を母語とする日本語学習者と日本語母語話者とのコミュニケーションの障害の原因になりうると考えられる。今後、日本語の悩み語りの構造も明らかにし、タイ語との異同を明らかにしていく必要がある。

5. 今後の課題

本稿ではタイ語における悩み語りの構造について、特に語り手に注目して分析、考察した。今後日本語における悩み語りの構造も分析し、タイ語と対照をする予定である。

また、悩み語りの構造を明らかにするには、語り手の行為を分析するだけでなく、聞き手の行為も分析する必要がある。なぜなら、悩み語りは語り手と聞き手の相互行為であり、相互に影響し合うことによって会話の構造が変更される可能性があるからである。また、語り手が悩みを語っている時、聞き手がどのような対応を取れば、会話がスムーズに進行するのかについても、日本語教育においては重要な指導項目となる。今後、語り手と聞き手の相互行為を詳細に分析し、両言語の悩み語りにおいてどのようなことが行われているのかを解明していきたいと考えている。

参考文献

北口信幸（2015）『「慰め」の言語行動―日本語母語話者間における親しい同性間の談話構造―』大阪大学大学院言語文化研究科日本語日本文化専攻修士論文

串田秀也（2006）「聴き手による語りの進行促進―継続支持・継続催促・継続試行―」『認知科学』16 (1) pp.12-23

佐田奈央美（2006）「親しい友人同士の雑談における narrative」『日本語・日本文化研究 』(16) pp.183-192

Daengsubha, Suwatana（2015）『「助言」の会話の日・タイ対照研究―女子大学生の友人同士の会話に着目して―』大阪大学大学院言語文化研究科日本語日本文化専攻博士論文

戸江哲理（2007）「悩みの分かち合いの会話分析」『ソシオロジ』51 (3) pp.39-55

戸江哲理（2018）『和みを紡ぐ:子育てひろばの会話分析』勁草書房.

トーンハーン，タッサワン（2012）「不運な経験を語る会話の日・タイ対照研究―深刻度による構造の違いに注目して―」大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻博士論文

西阪仰，串田秀也，熊谷智子（2008）「特集：相互行為における言語使用:会話データを用いた研究について」『社会言語科学』10 (2) pp.13-15

安井永子（2012）「接続詞「でも」の会話分析研究―悩みの語りに対する理解・共感の提示において―」『名古屋大学文学部研究論集』58 pp.89-102

李麗燕（1998）「日本語母語話者の雑談における「物語の終了」―物語を終了するために語り手が行う言語行動を中心に」『日本語教育』96 pp.85-96

Jefferson, Gial and John R.E. Lee. 1980. On the sequential organization of troubles-talk in ordinary conversation. *End of grant report to the (British) Social Science Research Council on the analysis of conversations in which 'troubles' and 'anxieties' are expressed*. pp.10-11.

Labov, William. 1972. *Language in the Inner City: studies in the Black English Vernacular*. Philadelphia: University of Pennsylvania Press. pp.359-360.

Maynard, Senko K. 1989. *Japanese conversation: self-contextualization through structure and interactional management*. Norwood, N.J.: Ablex Pub. pp.116-121.

---

[1] 戸江（2007:pp.54）は、「トラブル」というとき、それは「悩みごと」や「厄介ごと」といった言葉と互換的であると述べており、本稿も同様と捉える。

[2] 12 の悩み語りのうち、7 つのタイプが見られた。2 番目に多かったタイプは【経験語り】のみ語ってすぐ話題を終えるタイプで、3 つの事例が見られた。他のタイプは以下の 5 種類であり、いずれも事例が一つずつであった。

1.【心情の表明】+【理由の説明】
2.【悩み提示】
3.【悩み提示】+【推測】+【理由説明】
4.【心情の表明】+【現状説明】+【悩み提示】
5.【意見提示】+【心情の表明】+【意見提示】+【経験語り】

[3] しかし、【経験語り】の後に【悩み提示】をするといった構造は 22 の悩み語りのうち 1 つしか見られなかった。

[4] TH1 による会話では、語り手が先輩に対するいやな経験をいくつか語り続けると、聞き手が自らの類似した経験を次に語ってしまい、結果的に語り手は悩みであることを表明しないまま、その話題を経験語りとして終えることになったという会話がみられた。